

3月22日 四旬節第5主日

イエスに引き寄せられる

ヨハネによる福音書 12章 20～33節

²⁰ さて、祭りのとき礼拝するためにエルサレムに上って来た人々の中に、何人かのギリシア人がいた。²¹ 彼らは、ガリラヤのベトサイダ出身のフィリポのもとへ来て、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ。²² フィリポは行ってアンデレに話し、アンデレとフィリポは行って、イエスに話した。²³ イエスはこうお答えになった。「人の子が栄光を受ける時が来た。²⁴ はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。²⁵ 自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。²⁶ わたしに仕えようとする者は、わたしに従え。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。わたしに仕える者がいれば、父はその人を大切にしてくださる。」

²⁷ 「今、わたしは心騒ぐ。何と言おうか。『父よ、わたしをこの時から救ってください』と言おうか。しかし、わたしはまさにこの時のために来たのだ。²⁸ 父よ、御名の栄光を現してください。」すると、天から声が聞こえた。「わたしは既に栄光を現した。再び栄光を現そう。」²⁹ そばにいた群衆は、これを聞いて、「雷が鳴った」と言い、ほかの者たちは「天使がこの人に話しかけたのだ」と言った。³⁰ イエスは答えて言われた。「この声が聞こえたのは、わたしのためではなく、あなたがたのためだ。³¹ 今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。³² わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。」³³ イエスは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、こう言われたのである。

他の朗読：エレミヤ 31:31, 34 詩編 51:3, 4, 12～15 ヘブライ 5:7～9

Lectio …読む

ヨハネだけが、ギリシア人がイエスに会いに来たというこの出来事を書き残しています。ヨハネによる福音書ではイエスは、エルサレムに入った時、彼を称える大群衆を伴っていました。

その群衆の中に何人かのギリシア人がいました。彼らはユダヤ教徒ではありませんでしたが、イエスに会いたいと願いました。ギリシア人たちは弟子の一人であるフィリポに、個人的にイエスに面会させてほしいと頼みます。これらの「外国人」との出会いが、イエスの憐れみを奮い立たせます。イエスは、ご自身の宣教が全ての国の人々のためであるという思いを新たにします。

表面上、イエスはその日、名声の中にありました。しかし、凱進行列のようなこの興奮がすぐに崩れ落ち、敵意に満ちた侮辱と耐えがたい苦しみに変わるであろうことをイエスは知っていました。ほんの数日後に、この同じ群衆がイエスのはりつけを求め、一番親しい友人たちでさえイエスを見捨てることになるのです。17～19章で、ヨハネは完全にこのことを描ききっています。

イエスは弟子たちに、彼の内にある苦悩を垣間見せています。そして弟子たちは、イエスの死後にそれを思い出します。イエスが自身の「苦しみのとき」について話している時、天から声が聞こえます。28節です。ある人々にはその声が聞こえ、またある人々は雷が鳴ったのだと考えたようです。しかし、この神の言葉が聞こえたのはイエスを誇示させるためではなく、人々の幸せのためであると、イエスははっきりと言い表しています (30節)。

Meditatio …黙想する

今日の朗読で、イエスはどのようにご自分の十字架上の死を暗示しているでしょう。イエスはまた、人生を通して彼を導いた偉大な原則について述べています。この原則とは何でしょうか。

イエスが、「この世の支配者が追放される (31 節)」と話した時、誰のことを言ったのだと思いますか。どのような方法であなたはイエスに仕え、従いますか。

Oratio …祈る

イエスは 32 節で、十字架に上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せようと約束します。今までに、イエスがあなたをより近くに引き寄せたのを経験したことがありますか。時として、こういった愛に接することは、あなたに恐れを抱かせるかも知れません。イエスが目に見える形で御父を愛し信頼したように、あなたがイエスを愛し、信頼することが出来るよう助けを願いましょう。

今日の詩編から特に 12 節の言葉を、今週のあなた自身の毎日の祈りとしてみましょう。「神よ、わたしの内に清い心を創造し／新しく確かな霊を授けてください」。

Contemplatio …観想する

今日の他の朗読箇所は、人類を救うイエスの使命に多くの光を当てています。エレミヤ 31 章 31 ～ 34 節で、神はユダヤ人との新しい契約について語ります。そしてユダヤの民を通して、同時にすべての民に対して「彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである (34 節)」と言うのです。

ヘブライ人への手紙 5 章では、それが神の計画であるが故に、イエスはすすんで十字架の屈辱を受けた、と語られます。イエスは、苦難を受ける前から、それを受け入れていました。全ての根本には、私たちを含めた弱い人間に対する、神の情熱的な愛があります。神の偉大な愛はどのようにして、神とあなたとの関係を変えるのでしょうか。